

テーマ：挫折と苦悩 ‘自分らしく生きたい!’

● 1980年5月 大橋史信 誕生! ●

- ・ 大橋家の第二子(次男)として生まれる。
父・母・7つ年上の兄がいる。



● のびのびと大切に。末っ子・史信くんの健やかな成長 (0歳~3歳/幼稚園入園前) ●

- ・ 一人っ子のごとく、大事に大事に育てられた。
- ・ 夫婦関係は、特に問題が無いように感じていた。
- ・ こだわりなどはなかったが、多動・多弁の傾向はあった。



● 不器用で泣き虫。「女性の先生嫌い」始まる。(3歳~6歳/幼稚園入園後) ●

- ・ 東京都・文京区にとある教会が運営している幼稚園に入園後、友達もでき、よく遊んでいた。
- ・ 弁当はよく残して先生に怒られていた。怒られるとよく泣いていた。女性の先生は嫌いだった。おもしろをよくしていた。
- ・ 工作等 ものを作る・手先を使うのは苦手だった。
- ・ おやつ時間が大好きだった。

● 転校先での暗黒時代の幕開け。新しい出会いが自分を壊していく。(6歳~12歳) ●

(学校環境)

- ・ 小学1年生~3年生1学期まで、東京都・文京区の小学校で、3年2学期から卒業までは、東京都・豊島区の小学校で過ごす。
- ・ 担任との相性は、転校前までは良好だったが、転校後は最悪だった。思い出したくもない先生です。
- ・ 友人関係は、転校前までは良好で楽しく学校生活を送っていたが、転校後は、最悪だった。
- ・ 自分の暗黒時代の幕開け
小学校後半3年間は、いじめ・不登校を経験した。(肉体的・精神的共にあった。)



(家庭環境)

- ・ 習い事(水泳、柔道、そろばん、塾、英会話など)はいろいろなことをさせてもらえた。
ただ、家族との関係は、ことなかれ主義で、よくなかったと思う。

※いじめ、不登校の反動で、いい子ちゃんにならなければ、認めてもらいたい、わかってもらいたいという性格傾向が強くなる。

● 変えなかった環境と変わらない状況。(12歳～15歳) ●

(学校環境)

- ・ 私立中学を受験するものの失敗。地元中学ではなく、越境入学をする。
- ・ 担任との相性は、3年間同じで、良好だった。
(男性の年配の技術家庭科の先生 金八先生みたいな人)
- ・ 友人関係は、上手く行かず、1人で過ごすことが多かった。
友達を自宅に呼んだことが一度もなかった。
- ・ 生徒会活動に取り組む。



(家庭環境)

- ・ 夫婦関係は、仮面夫婦 当たり障りなく、無事に済めばいいという感じだった。世間体・価値観・目線・地域をものすごく重んじていた気がする。
- ・ 父との確執がはじまり、親とのトラブルが多かった。親には、本音で相談することは出来なかった。
(話を聞いてくれない、一方的に考えを押し付けられる、向き合ってもらえない。)
- ・ 兄とも口はほとんどきかず。祖父母とも疎遠、親戚づきあい等は、一切ない。
- ・ 一度も友達を家に招いて遊んだことがない。(もともと呼べる友達もいなかったが家族が強く拒んでいた)
- ・ 家でも孤立し、自分の居場所がなかった。
- ・ その反動か、特に中2の夏以降から性的趣向への関心興味をすごく持つようになる。

● 【何もない】生活。孤立と孤独。暗黒時代の再来。(15歳～18歳) ●

(学校環境)

- ・ 推薦入試で、私立の高等学校普通科に進学。
- ・ 3年間暗黒時代です。何一つよい思い出がないです。不登校気味にもなりました。
- ・ 友達もいなく、部活もテニス部に入部するがすぐにやめ帰宅部。
- ・ 成績も、中の下。卒業ぎりぎりレベルだった。

(家庭環境)

- ・ 親 特に父親との関係がさらに悪化。自殺未遂を繰り返す。包丁を持ち出す、暴れる。
- ・ 学校指定医の心療内科に3年間通う。
- ・ ボランティア活動を積極的に行うようになるが、アルバイトは一切親に認められず。



● 道に迷い途方にくれた大学生。奉仕という居場所 (18歳～20歳) ●

(学校環境)

- ・ 一般入試で、私立の大学に進む。(福祉情報学科)
- ・ やる気スイッチが切れ、入学したものの方向性等読み違えてしまい、大学と合わず、ほとんどいかず。
- ・ ボランティア活動に明け暮れる。アルバイトは、家庭教師をやる。



(家庭環境)

- ・ 親の仕事が傾く。経済的に困窮し始める。さらに関係は悪化。
(ただ、方向性等転換し、現在は持ち直す)



● 家族との確執。心のひきこもり(20歳～29歳) ●

- ・ 上記の状態があり、本人の許可なく親が、勝手に退学手続きをし、中退。
→この件で、さらに親子関係こじれる。
- ・ その後は、福祉・公務、教育、NPO等で生計を立てながらやってきました。学歴コンプレックスの塊。
- ・ 福祉、介護職等 公務・非営利関係の仕事をやって生計を立てる。

社会的ひきこもり傾向強くなる。

対人関係・コミュニケーションはいい子ちゃんできょうと頑張りすぎて、周りとの関係構築に困る。
その反動とストレス発散、本来の自分としていられる場所を強く求め、ネットなどへの依存が強くなる。
→課金等しすぎて借金を創る、ボトラー等をするダメダメ人生まっしぐらを経験。



● 今の自分が生かせる場所。今の自分で生きれる場所。KHJとの出会い。(30歳～35歳) ●

心療内科は、今まで8カ所ほどいっているが、ほとんど自分の意志で中断していた。

- ・ これまでも、上司等から、「何かしら（障害など）を持っているから、病院にかかったほうがいい」と言われていた。しかし、自分のプライド等で出来なかった。
- ・ 上述の通り、生きづらさがピークとなり、東京・文京区にある 東大前心のクリニックに33歳の夏に受診。



軽度精神遅滞 (IQ65) 付 大人の発達障害 (ADHD 自閉症スペクトラム)、二次障害として適応障害がある

と診断がつく。

両親/家族は、自分の障害については、拒絶。これにより1年弱完全にひきこもる。

ひきこもっていた時に考えていたこと・・・

暗いまっ暗闇にいる感じ 出口の見えない不安・恐怖感・・・

自責の念 無気力 絶望 現実逃避 自殺願望 家族や社会を恨む・・・

俺なんか生まれてこなきゃ良かったんだ・・・ 今の現状をなんとかしたい・・・でもわからない・・・

家族と上手くやりたい・・・ 父ちゃん、母ちゃんが好きだ・・・でも・・・

ひきこもりから回復する機会となったのは、KHJとの出会いだった。そして…

● KHJとの出会い。手に入れた羅針盤。‘ピアサポーター’として生きる。●

- ・ KHJとの関わりは、自分の特性が分かり、今後どう生きていこうかと模索し始めたときに、団体はもともと知っていたので、問合せをしたことから始まる。(約4年ほど前)

この出会いこそが私にとっての人生の転機! 羅針盤を見つけるきっかけを得た出来事!

それからは、ピアサポーターとして、各種事務作業・助成金申請・学習会等運営補助などに、関わる。また、障害をオープンにして、出来る範囲で就労等もする。

■現在の家族・親戚等関係

現在は、相手に求めすぎない心構え等、自分の考え方を変え相手を許し、距離を取り合いながら、家族とはやり取りしているので特に問題はない。

■自身の特性について

WAIS-III 成人知能検査の結果、主診断名 軽度精神遅滞、従たる症状 大人の発達障害 注意欠陥多動症、自閉症スペクトラム 2次障害として、適応障害と診断がつく。東京都 精神障害者福祉手帳3級を取得。

(具体的な症状)

+多動、多弁。+Wブッキング。+ものをよく忘れる、落とす。+メ切りが守りにくい。(先送り現象)

+手先が不器用。+感情の出し方が苦手。などがあります。